

かすみがうら市議会文教厚生委員会会議録

平成29年4月19日 午前10時55分 開 議

出席委員

委員長	田谷文子
副委員長	設楽健夫
委員	古橋智樹
委員	岡崎勉
委員	宮嶋謙

欠席委員

なし

委員外議員

なし

出席説明者

教育長	大山隆雄
教育部長	飯田泰寛
学校教育課長	山内美則
保健福祉部長	寺田茂孝
子ども家庭課長	大久保昌明

出席書記名

議会事務局 檜山宏美

議 事 日 程

平成29年4月19日(水曜日) 午前10時55分 開 議

1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 事 件
 - (1) 千代田中学校区統合小学校整備に係る当面のスケジュールについて
 - (2) さくら保育所閉所に伴う民間事業者協議進捗状況について
4. 閉 会

開 議 午前10時55分

○田谷文子委員長

皆さん、おはようございます。

委員の皆様にはお忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまの出席委員は5名で、会議の定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

それでは、ただいまから文教厚生委員会を開会いたします。

調査に入ります前に、本日、教育長がご出席されておりますので、ご挨拶をいただきたいと思いま

○教育長(大山隆雄)

改めまして、おはようございます。

また、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

年度初めで、各教育現場、学校におかれましても、それぞれの学校で入学式も済みまして順調なスタートができたようでございます。

本日は、千代田中学校区統合小学校整備に係る当面のスケジュールについて、さくら保育所閉所に伴う民間事業所協議進捗状況についてを主な議題としましてご協議いただくわけですが、率直なご意見等を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はいろいろお世話になります。よろしくお願いいたします。

○田谷文子委員長

ありがとうございました。

それでは、書記を指名いたします。議会事務局、檜山係長を指名します。

本日の調査事項は、お手元に配付いたしました会議次第のとおりでございます。

会議に先立ち、執行部に申し上げます。簡潔明瞭に、わかりやすい説明をお願い申し上げます。

きょうは、川村委員が傍聴したいということで、皆さんよろしくお願いいたします。

それでは、早速、調査に入ります。

初めに、千代田中学校区統合小学校整備に係る当面のスケジュールについてを議題といたします。説明を求めます。

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長(飯田泰寛)

大変ご苦勞さまでございます。

それでは、千代田中学校区統合小学校整備に係る当面のスケジュールについて、担当の学校教育課

の山内課長からご説明申し上げます。

○田谷文子委員長

学校教育課長 山内美則君。

○学校教育課長（山内美則）

本年度の4月の定期異動によりまして、学校教育課に配置となりました山内と申します。よろしくお願いたします。

それでは、資料に基づきまして説明をさせていただきます。

お手元の資料、千代田中学校区統合小学校整備に係る当面のスケジュールという資料をごらんいただきたいと思ひます。

この資料につきましては、現時点で考えられます統合小学校の開校までのスケジュールを最短の場合を想定いたしまして、図として提示をしたものでございます。

昨年度に実施をいたしました子どもの成長を支える地区懇談会におきまして、2回目までの結果を踏まえ、第3回において市長から市の判断が公表されました。現行の計画では進めることが難しい状況と判断されるため、統合に向けて新たに検討することとし、小中学校適正規模化実施計画の見直しを行うという流れでございました。

地区懇談会におきましては、1つ目として、千代田中学校区の4小学校の適正規模化実施計画の見直し、2つ目に千代田中学校の適正規模化の検討、3つ目に廃校施設の活用の検討を市の施策の方向として説明をしております。

しかし、3つの施策を一括して整備するには相当の時間を要するものと考えます。また、統合小学校の施設整備を行うに際しましても、現計画段階から一定の時間が必要であると見込まれます。そのため、先行して当面の課題である4小学校の適正規模化実施計画の見直しを行いまして、引き続き小学校の統合を進めていくという方向でござひます。

資料の平成29年度の前半部分に記載してござひますが、学区審議会の開催でござひます。さきの平成29年第1回定例会前の全員協議会において報告をいたしました学区審議会の開催につきまして、今月26日に予定をさせていただいているところでござひます。

審議会の内容につきましては、かすみがうら市小中学校適正規模化実施計画の一部見直しということでありまして、統合後の新校の位置に関する検討について、現在の計画である志筑小学校から千代田中学校敷地内に見直すという諮問を行う予定でござひます。答申につきましては、第2回目の審議会を5月中旬ごろをめどに開催を予定しておりますので、そこでいただくことを想定しております。その後になります、教育委員会において議決をいただきまして、小中学校適正規模化実施計画を改正するとともに、市議会、全員協議会のほうへご報告をさせていただきたいと考えているところでござひます。

なお、ただいま説明を申し上げましたように、順調に進んだ場合には、6月の定例会において基本計画及び基本設計の委託に係る費用を補正予算としてご審議いただきたいと考えております。

その後、補正予算の議決をいただきました後に、この資料の中央の部分に記載してござひますが、基本計画及び基本設計の発注ということになると思ひます。基本計画につきましては、当該地区の状況に最も合う形のもの数をパターン作成をいたしまして、十分な期間をとって検討を加えてまいる予定でござひます。その検討組織といたしまして、資料の中ほどに横書きで記載しておりますが、整備基本計画策定委員会（有識者会議）を学識経験者や専門家などを加えて立ち上げたいと考えております。

その後、平成 31 年度には実施設計を発注するとともに、校舎の建設に対する国庫等の補助の手続を行います。平成 32 年度から平成 33 年度にかけて、校舎等の建設工事を実施いたします。そして、平成 34 年度に統合小学校の開校というものが現在想定できる最短のスケジュールということでございます。

なお、統合委員会につきましては、開校後の学校運営が円滑に進むように前もって実務を調整する組織でありますので、保護者の代表や教職員といった委員の方も先ほど申しあげました整備基本計画策定委員会と重なることが考えられると思います。整備基本計画策定委員会が終了した後に設立を行うということを考えております。

また、小中一貫教育につきましては、資料の一番下の欄に横書きで記載しております小中連携推進委員会です。昨年度からこの組織をしまして、調査、検討を進めているところでございます。今後、小学校の統合と並行して検討を進めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

○田谷文子委員長

ありがとうございました。

暫時休憩します。

休 憩 午前 11 時 05 分

再 開 午前 11 時 07 分

○田谷文子委員長

会議を再開します。

ただいまの件につきまして、ご質問等がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

ご質問はございませんか。

古橋委員。

○古橋智樹委員

霞ヶ浦地区の統合スケジュールとの相違はあるんですか。ほぼ同じなんですか。実績と。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

大きな相違というのは、平成 29 年から平成 30 年にかけてあります基本設計、基本計画、これが当時はその前段でできていたというような状況があったかと思えます。後年、5 年の期間の中で統合に持っていくというような流れはほぼ同じであったかと思えます。ただ、中学校はちょっと早目に、平成 26 年 4 月のオープンでしたから、中学校のほうは大分急いだといいたいまいしょうか、スケジュール的には急いだ感はありましたけれども、小学校につきましては 5 年のスパンの中でやってきたので、それはそんなに相違はないというふうには思っております。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

その経験を踏まえて改善して、今回こういう形で臨みたいという事務局としての考えはありますか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

基本設計と基本計画をつくるに当たって、策定委員会を設けて、この策定委員会の中でご意見をいただいているものをつくっていきこうというところは、まさにおっしゃる部分であります。我々、霞ヶ浦南小学校の増築に際しては、議会からいろいろご指摘を、例えば教室の広さ、廊下のつくり方、バリアフリーに関する考え方等を随分ご指摘をいただきましていわゆる委託任せというんでしょうかね、そう形がなきにしもあらずというようなこともあったものですから、ここはきちんと時間をかけて、あらあらの絵ができた段階で、いろいろな方面でご審議いただいて、いいものをつくっていききたいと思います。実施設計に入りますと、もう動けなくなります。その前段で、いい形のものをつくっていきこうことを一番に心がけたところがポイントと考えております。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

それで、先般のつくば市の市民の理解が浸透しなかったというような事業もありましたけれども、ここかすみがうら市においては、霞ヶ浦地区はうまくそれが働いたけれども、千代田地区は働かなかったということで今に至っているかと思えます。今後は、千代田地区が同時進行できなかったということです。丁寧にやっていくべきだと思うんですが、そのあたりをどういう考え方で臨まれますかね。ただ単に、語弊がありますけれども、一方通行で仕事をしていくと、またそういった消極的な捉えられ方もしますから、それをいかに積極的に皆さんに事業を理解いただくかということで手間暇がかかると思うんですけれども、事務局はどのように。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

まさにおっしゃる部分が懸念されるどころかと思えます。統合4校地区については、これまでも再三、ここで説明申し上げておりますけれども、1校対3校という図式になっております。その大勢の3校地区の意見を取り入れると、結果的に取り入れるというような形になったわけでありまして。当然、その1校の方々にとっては、なかなか納得しがたい部分もありますものですから、やっぱりこの方々への理解をどう得るかということが一番重要だと考えております。

昨年の12月からPTAを主体に説明会を行っています。特に志筑地区については、12月と1月、2月と3月行っております。感触的なものはなかなか申し上げることはできませんが、まだまだ賛成できないとおっしゃる方がいらっしゃることも事実です。ただ、我々としては、ほかの3校地区のPTAの方々が言うのは、ここでも説明していますが、4校一緒に統合したいんだと言っております。なので、ぜひ志筑地区の皆さんを説得してと言葉に語弊があるかもわかりませんが、よく行政側のほうで理解を得るようにも伝えていきます。

そういういった雰囲気的なところは、理解はしていただけたのかなと思っております。まだまだ志筑地区に建ててほしいということをおっしゃる方が実際にいらっしゃいますから、同時並行的に説明会をこれからも開催すると申し上げています。PTA総会が4月にありますので、そういう総会が終わった後に、統合小学校は、千代田中学校の敷地に決まったということをもう一度、志筑地区の中で整理をしたいという申し出がありました。PTA総会中で協議をした結果を、また行政側に伝えたいと伺っております。当然言っていただければ、すぐに行政側がお邪魔するというように申し上げます。

このような細かい説明会を積み重ねていき、何とか4校一緒に統合していただけるような機運をつくっていくことを、そこを一番心がけています。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

一番、そういう状況でありながら、こちらが粛々と進めていることが例えば6月の補正とかということになると、全くもってもろ手を挙げて賛成をまだしてないんだよというのに、議会に挙げるのは余りではないかということがあるので、その辺はよくセンシティブな対応をお願いしたいなと思います。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

わかりました。

○田谷文子委員長

委員長をここで、副委員長と交代します。

[委員長、副委員長と交代]

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

私は、このスケジュール表を見させていただいて、本当に教育委員会、学校教育課は今回いろいろな面を配慮していただいて、前回の密室みたいなことがなくなったなと感じました。一番それを感じたのはなぜかと言いますと、前回、志筑小学校は基本設計ができてから、そして立ち上がってから学区審議会が始まったんですね。それから、市民や議会にも発表したというため大分遅れました。

基本設計ができてからいろいろな会議を持ったということで、今回は学区審議会のまだ答申はいただいていない段階ですけども、6月に補正予算を組む、早ければ補正予算を組むというようなことですので、前回よりは少しお勉強していただいて、密室の会議がなくなったのかなということを楽しんでいます。このスケジュールどおりにやっていただきたいなと思いますので、その都度、私ども文教厚生委員会にも、また全協を通じて議員にも知らせていきながらやっていただきたいこととお願いしたいと思います。

いかがでしょうか、教育長。

○設楽健夫副委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

今、田谷議員さんからお話があったことを受けて、今後ともこのスケジュールに沿った上で進んでいこうと思っております。また前にもお話しいただいておりますが、この文教厚生委員会、そして市民への周知、こういったものを大事にしながら進めていただきたいということを受けております。教育委員会としても、そういったことを十分配慮しながら進めていくことを念頭に置いていきたいと思っております。

以上です。

○田谷文子委員

ありがとうございます。

○設楽健夫副委員長

副委員長ここで、委員長を交代いたします。

[副委員長、委員長と交代]

○田谷文子委員長

そのほか、ご質問ありませんか。

設楽委員。

○設楽健夫委員

今回のこの文教厚生委員会は、そういう意味では、今までもさまざまな問題がありながらも新しいスタートを切ったという考え方を持っている。議会の中でも大きなものとしては2つあると。1つは、適正規模化実施計画、平成25年3月で出された計画の中で次善の策から最善の策に変更すると、統合を、先ほどから言われています千代田中学校地区に統合していくということが1つ。もう一つは、市長の施政方針の中で、今、全国的にも進んでいますけれども、義務教育学校、特に小中一貫教育を基本的なかすみがうら市の教育の最前線といいますか、基本計画の柱にするということを市長からの説明があったと。

そういう意味では、数年間の時間を要しましたけれども、かすみがうら市が総力を挙げてこの教育体制を整備していくと、そういう重要なスタートを切ったというふうに自分は考えています。その辺については、大きな進めていく上での柱を全体のやっぱり共有事項というふうにしておく必要があるというふうに思うんですが。

教育長、その辺はいかがですか。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

やはり文教厚生委員会、また議会と我々教育委員会、情報の共有、そういったものはやっぱり欠かすことはあってはならないと私も考えております。今後とも十分尊重して進めていきたいと考えております。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

それで、この平成25年3月に出されました小中学校適正規模化実施計画、この中に1つ、次善の策として志筑小学校に統合するという内容と、もう一つ、9ページに第2期計画期間、現在、が入ってくると思います。児童・生徒数の推移や社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じ学区の見直しを検討することとしますという大きな柱があったというふうに思うんです。

この件については、統合委員会においてもやはり相当慎重に検討されて、そしてこの計画書が作成され、教育委員会においてもそのことが確認され、そして進んできたというふうに理解しているんですけども、この平成25年3月の実施計画については、これは基本ベースとして、今後もやはり審議していく上でのさまざまな資料も入っていますけれども、児童数とかね、ベースになるものというふう考えていく必要があると思うんですが、この辺はいかがですか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

今回、我々は一部改正と申し上げていますのは、千代田地区の統合場所に関して変更する意味で一部改正と申し上げています。特に霞ヶ浦地区は、その計画どおりでありましたので、動かす必要は当然ないと思っております。

それともう一つ、学区の見直しの話が出ましたが、前回の適正化計画では宿題になっているわけです。そのため、それは次の5年間という中で当然、今後考えていく話ですけれども、今回の学区審議会に関しましては、それはちょっと切り離して審議をお願いしようと思っております。

といいますのも、学区の見直しに関しては、当然、稲吉地域の人たちの説明会やアンケートのご意見をいただく中で、意向等を確認しない中では審議になりません。そのようなことになると、千代田地区の統合が、4校地区の統合がさらにおくれるということになりますので、ここはあえて今回の学区審議会とは切り離した中で、まず一つ答申をいただきたいと考えております。ただ、いずれにしろ、これも避けては通れない宿題、課題として残っているものですから、速やかにまた煮詰めていかなくてはならない問題だと考えております。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

先ほどの4地区の全体の意思の一致を一番大切なところとして、住民各位のさまざまな意向を尊重しながら、やっぱり双方向で相互理解を深めて物事を進めていくというところにおいては、ちょっと時間的なものも今後、PTA総会とかあるいは説明会とかということがあるという報告がされましたけれども、相当やはり慎重に丁寧に進めていく必要があるというふうにこれは思うんです。

そういうふうになってきますと、一方で、この平成29年度の第4期といいますか、第4ポーターぐらいが想定されているんでしょうけれども、6月となると半分です。補正予算という形で今、お話がありましたけれども、ここは相当慎重にいきませんと、さまざまな意向が、やっぱり住民の方からの理解が得られぬままに進んでいくという危険性といいますか、それも一方で持っていると思うんです。それが一つ。ここは相当慎重に進めていく必要があるんじゃないかというふうに思います。

これは、先ほどからもそのような意向で教育長も進められるということが話されましたので、その点については重々配慮をしながら進められるというふうに思うんですが、その一方で、今回の難しさというのは、小中一貫校の方針が一方で出されている、この点については、やはり戦後の中でもPTAがつくられていく時期があったというふうに思う。

そのときに文部省令が出されて、各地域にPTAがつくられた。そのときには何が言われたのかと、文部省は出したのか、その通達文はもうご存知だというふうに思いますけれども、一方では、これは学校、もう一つがPTA、もう一つが地域、この3者が子どもの現実の姿を把握して、そこからどのように、子どもが成長していくことができるように最善の策を尽くしていくように図らなければならないということがうたわれてきたと思うんです。それは昭和50年前だと思う。

そういう意味では、そういうものがあって、そして学校関係がさまざまな審議会だとかいうものがつくられて進んできたと思います。けれども、同じように今回もやはり特に小中一貫教育については、これは教育委員会の中でもその体制は整えられてきているというふうには思いますけれども、この点について、同時並行的に進めていく必要があるというふうに思うんです。この点について、教育長、

どうお考えですか。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

設楽議員のおっしゃるとおりで私ども考えております。きのう、実は今年度第1回の小中連携推進委員会を、昨年12月から、12月、1月、2月と開催して、今年度になってきのう、第1回目の委員会を開催しております。そういったことを十分踏んでいく中で、少しでもかすみがうら市としてよりよい小中一貫教育にしたいという思いで進めていきたいと考えております。

以上です。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

それで、前にも話をさせていただきましたけれども、やはり市長のほうから基本的な方針として小中一貫教育、これを推進するということがやっぱり宣言されたわけですから、そこで、やはり教育委員会の中でも基本理念、基本方針について、早急にまとめていく必要があるというふうに思うんです。

その点については、最初の理念あるいは方針については、総論をやはりどういうふうな形で進めていくのかということをもとめていく必要があるというふうに思いますけれども、そういう意味で2つほど、1つは小中連携推進委員会、これの基本的な組織をつくって進めていく上での要綱、同時に、かすみがうら市が基本的な形で住民に対しても小中一貫教育で教育委員会は進んでいきますということをややはり知らしめていく必要があるというふうに思うんですけれども、この点についてはいかがですか。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

現在、設置しまして進めている小中連携推進委員会、これ、前にもお話ししたかと思うんですけれども、この趣旨は、かすみがうら市における小中連携の推進を図ることを目的に、各種調査研究事業、研修、講演会等の開催、その他小中連携を推進する上で必要な事業を行うため、かすみがうら市小中連携推進委員会を設置するという趣旨で設置しました。この中で先ほど設楽議員がおっしゃったように、基本方針もできるだけ早い時期に策定していきたいというように考えております。

以上です。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

意味はわかりました。そういう意味では、この小中連携推進委員会についても、やはりホームページにアップするなり基本的な要綱、開催趣旨、その点については、やはり市民の前にも明らかにしていく必要があるというふうに思うんです。やはり今のかすみがうら市の教員の組織、人事体制というのは県の管轄になると思いますけれども、今までつくばあるいは土浦で小中一貫校という意味でさまざまな形で研究されたり、あるいはその具体的な活動の中に入って実績を挙げられている方が相当数おられますね。私も、いつも行っている霞ヶ浦中学校の市川校長もやはりそうでした。今度来られた、井元さんですか。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

教頭です。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

教頭さんも、土浦の教育委員会の中でやはり重要な活動をされてきていた。あと、千代田中学校の井坂校長、この方もやはりそういう経験者です。それ以外にも、今度来られた櫻井……

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

好一。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

櫻井好一先生ですか、もやはり重要なところでやられてきていた。相当数のメンバーがその中に配置されてきて、構成されてきているというところを見ますと、これは教育長がさまざまなかすみがうら市の子どものたちの育成を考えていく上で、つくばとか土浦でやられていることについて、やはり精力的に研究されて、そしてこういう方たちと一緒に1日も早く基本的な理念、方針、そういうものを整備して、各論について言いませんけれども、市民の前に明らかにして、そして進められていくことを求めて、要望をしたいなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

設楽議員のおっしゃるとおり、今年度、土浦市の指導主事をなさっていた霞ヶ浦中学校の井元教頭ですね。それから小松崎健七会小の校長もつくば市のほうで1年勉強してきています。それから、先ほど出ました非常勤講師として、各中学校区に議会の予算を可決していただきまして配置することができました。各中学校に1名ずつ英語の先生を配置するというので、その一人として、櫻井好一先生をお迎えすることができました。

この方は、つくば市の総合教育研究所の初代所長で、春日小中学校の開校に向けての小中一貫教育に携わってきた草分け的な第一人者であります。この方をぜひ何とかかすみがうら市で招聘したいなという中で、今回お迎えすることができました。英語教育ばかりでなく、先ほど出ました小中一貫教育についてのいろいろな面での協力は惜しまないということでした承得ておりますので、今後ともいろいろな場面で支えていただければと願っております。少しでもよりよい方向性をつくり上げる尽力をいただきたいと考えております。

以上でございます。

○田谷文子委員長

委員長ここで、副委員長と交代します。

[委員長、副委員長と交代]

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

今、お聞きしましたところ、部長が今回の小中学校適正規模化実施計画は一部の見直しだとおっしゃいましたよね。ということは、4小学校、場所だけ千代田中に変えますよということですか。そして、おかしいでしょうよ。補正予算が6月ごろ組むということになりますと、基本設計は今、教育長がお話ししていました小中一貫の教育をする、市長もそういうように明言しましたがけれども、小中一貫の教育をするということであつたら、この基本設計は小中一貫の教育をするためのそういう基本設計になるんですか。この基本計画及び基本設計というのは、そういうふうな目的で今進んで取り運び中ということですか。お聞きいたします。

○設楽健夫副委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

実施計画をつくる前段の基本設計、基本計画でありますので、そういったものも含めた計画にするというのが今回、予算をお願いすると考えている委託内容であります。ですから、当然、今回、千代田中学校の敷地に小学校の校舎を建てるということは、それをもってして小学校と中学校が立地するわけですから、場合によっては義務教育学校もできるわけですよ、スタイルとして。分離型でない義務教育学校のスタイルも可能なわけです。そういったものも含めて、ここは検討しなくてはいけないというふうには思っております。

ただ、小中連携推進委員会の中では議論をある程度加えていかないと、やみくもに義務教育学校だ、こういうスタイルだというふうにはやっぱりまいりませんので、これは今後の策定委員会の中でいろいろご意見を伺いながら、どういうスタイルがいいのかというものは煮詰まってくるのかなというふうには思っております。

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

そうすると、最初、どういうふうな校舎を建てて、どういうふうな設計をして、どういう小中一貫にするのか。どういうふうにするのか、こんな大事な仕事を、やみくもの中で始めるんですか。

○設楽健夫副委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

まずは、小学校の校舎をつくらなくてははいけませんよね。小学生が入る教室をつくらなくてははいけませんよね。まずはそこだと思います。そのときに小中連携としていくのであれば、中学校の校舎と小学校の校舎とどういうつながりを持つのだというのは、その基本計画をつくる中で当然盛り込んでいけるものだと思います。

そのため、1年半か2年近く期間を要するわけです。要は子どもたちが、いわゆる2クラスの教室があつて、特別教室があつて、あるいは給食室も整備があつてとかという基本のスタイルとプラス小中連携、いわゆる義務教育学校のスタイルでいいたらどうか、それとも、いわゆる小中連携タイプの校舎を目指すのかというのは、まさにこれから小中連携推進委員会の中で議論を待たれるべきものですので、そこは同時並行的に行われていくべきものだと思います。今の段階で、こういうスタ

イルだということはちょっと申し上げられません。

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

それでは、これ1年半以上、基本設計及び基本計画の時間は割いているわけですよね。そうすると、一番先に第2期計画の期間、平成29年から5年間ということですけども、ここに学区の編成ということがありまして、やっぱり学区の見直しが一番先にやらなくちゃてはならないことだと私は思うんですよ。

そういうふうにして、そして、小中一貫校を建てるのに設計をしたり、計画をしたり、そこを一番先に学校教育課並びに執行部がきちんとかいいうふうな旗を立てるんだよと、旗をまず立ててからいかないとかいいうものは進まないだろうし、揺らぐだろうし、また反対があるだろうし、いろんなものが見えてこないような気がするんですけども。1年半も期間を置くのであれば、一番先に学区の見直しをして進んで行っていただきたいと思いますが、いかがですか。

○設楽健夫副委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

学区の見直しは、やらないとは申し上げておりません。学区の見直しは、いかんせんこれから宿題になっていますから、これから当然やっていかななくてはならないのですが、ただ、学区の見直しをするには、やっぱり該当地域の方々にもご意見を伺わないといけないと思います。

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

それはもう伺ったのですか。

○設楽健夫副委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

該当地域の方々というのはどういうことかという、当然、稲吉地域の方です。ここには全くその話はしていないわけですから、平成25年3月の適正化計画をつくるに際しても、稲吉地域の学校については全く見直ししないという前提で議論していたわけですから、学区の見直しという話は今までしてなかったわけです。これからそのような話をしていけないといけないということです。ゼロからまた立ち上げていくわけですので、これは非常に時間もかかると思います。すぐは結論が出る話ではないと思っております。

ただ、当然千代田中学校に小学校と中学校ができて小中一貫という議論になれば、このままですと、千代田中学校の場合は生徒数がそう大きくならないと見えているわけですから、少しでも学区の見直しをして、千代田中学校の生徒をふやすというような議論が当然起こってくるとは理解しています。そのため、そういったものは今後の学区の見直しの議論の中で十分賄える話と思っております。

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

時間を費やすのであったら、系統立てて、いずれ学区の見直しはしなくちゃならないだろうと私は

思うんですよ。なぜかと申しますと、千代田中学校の生徒数が少なくなっていますし、いろんな面で今、問題視されているところですから。ですので、この基本計画、基本設計をしていくには、そうすると今度また小中一貫にするとかということになると、これまたもう一度やるんですか、これ。もう一度やるようなことにならないですか。なると思うんですよね。だって、4小学校の分だけ建てて、あとは分離型にするのですか、同じ敷地において。そういう最初の設計が、最初の基本ができていなければぐらつきますよね。

教育長、これは市長とどういってお話をされているのですか。千代田中学校区のこの統合問題だけではなくて、いろんな教育問題、統合問題について。

○設楽健夫副委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

学校の設置については、これは市長の権限です。教育委員会は、基本的にはあくまでもソフト面のことと考えを持っています。ですから、このように建てるとかそういうところまでは、私のほうではまだ明確なものは指示も受けておりません。

以上です。

○設楽健夫副委員長

田谷委員。

○田谷文子委員

でも、市長は補正をするというような発言をなさっているようですので、市長の頭の中にはあるんだろうと思いますので、6月の審議会でもお伺いしたいなと思っていますので、私のほうはこれで終わらせていただきます。

○設楽健夫副委員長

副委員長、ここで、委員長と交代します。

[副委員長、委員長と交代]

○田谷文子委員長

宮嶋委員。

○宮嶋 謙委員

今の関連ですけれども、今回、統合の位置に関して地域の皆さんが非常に熱心に議論を戦わせて、非常に熱い思いで皆さん集っておりましたよね。それはなぜかと言うと、単に小学校の統合の場所をどうするかということではなくて、千代田中学校区の教育全体のあり方とコミュニティのあり方に関しての大きな問題だからという認識だと思うんです。皆さんは、自分の地域がこれから人口も減っていくという中で、コミュニティの存亡の危機を感じていらっしゃると思うんです。

それで、その一番のポイントは、中学校がどうなるかということだと思うんですよね。ですから、志筑に統合しちゃったら中学校の連携がとれなくなって、いずれは中学校もなくなっちゃうというそういう危機感があるので、千代田中学校区に小中連携のすばらしい学校をつくっていただいて、人を呼び込んで地域を活性化していただきたいと、そういう思いが強かったからだと思うんです。

それを考えると、今回の統合問題をまずは切り離して、中学校区の問題は切り離して小学校だけをまずは進めるというのではなくて、どういう学校をつくるのか、学区をどうするのかという根本的な方針を定めてから、ではハード面をどういうふうにしようというふうに組み立てていくのがものの道理のように感じます。

先に小学校を連携、統合を進めて、後々、義務教育学校に編成し直すという、相当無駄が出てくると思うんですね。だから、最初、どっちを先にするかという話になるかとは思いますが、中学校区の学区の見直しに合わせて今回討議をしていただいて、それで新しい千代田中学校区にできる小中連携なのか義務教育学校なのかわかりませんが、新しい学校を中心に地域コミュニティが活性化するような絵を描いていただいて、それに向けて設計に入ると、そういう段取りにさせていただくのが最もよろしいかと思うのですが、いかがでしょうか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

そのようなことが整備基本計画策定委員会の中で、また議論されるころだと思います。あえて申し上げますと、今、宮嶋委員がおっしゃったのは、我々も地区の懇談会で十分お聞きしました。いわゆる3校地区の方々は、千代田中学校へ小中一貫で持ってきてくれという意見です。志筑地区の方々は、全く逆でした。小中一貫という必要性はないとか、志筑小学校へ統合するのんだと、完全に分かれたわけですね。

こういうこともまだまだ底辺にはありますから、ただ、いずれ、我々が選択したのは、千代田中学校に小学校を建てるということは同じ敷地に建つわけです。これは物理的に小中一貫の義務教育学校のスタイルもできるわけですね。だから、当然それは視野に入れた中での整備基本計画というものができ上ってくるのではないかと。

ただ、私が先にこう言うのは余り適切ではないかも知れませんが、今の人口形態の中で千代田中学校を持っていくと、よほど周辺エリアから強制的にとはいませんが、子どもたちを振り分けてこない限りは、小規模な中学校あるいは小中一貫校ということがもう目に見えているわけです。これは議論の余地がないと思うんです。だから、それでもいいのかということも含めて、この整備基本計画策定委員会の中でいろいろ議論をしていただきながら、どういう形がいいのかというものをつくっていただきたいなと思っております。

一番は、今回、千代田中学校に小中一貫校とおっしゃっている方々も、部活の数が下稲吉中学校と比べると半分ですから、千代田中学校の部活が成り立たないので、ほかの中学校へ行かせたいというような意見も出ております。むしろ、その辺をどのように考えるのか、そのときに学区の見直しの中でクリアできる問題なのか。

ただ、一方では、下稲吉中学校も生徒数は減少しているわけなんです。ピーク時に比べると学年で2クラス減っていますから、そのようなことも考えると、本当にどういったものかという話に、ちょっと深い話になってくると思います。ここは予断をもって進めるということではなくて、広く整備基本計画策定委員会の中で議論いただきながら進めていくものと思っております。ただ、いずれにしろ千代田中学校の敷地内に小学校を持つてくることに関しては、そのように進めていきたいと思っておりますので、当然、学区審議会の皆さんにもその辺をよく説明をして、理解をいただきたいと思っております。

あと、もう一つ言うと、先ほども古橋委員からありましたが、6月の補正予算を挙げるのが、恐らくおっしゃっているのは、志筑地区の方々にいいたほうがいいのか、一部の方々に理解が得られるのか、地域の完全合意が得られない中で、そういうふうにお金をかけることに対してうまく進んでいくのかというようなご懸念だったと思うのですが、実はこの話に関しては、3月の志筑地区のPTA懇談会の中でも実は4時間半くらいやってきましたけれども、こういったスケジュールも含めて説明は十分

してまいりました。

そのため、市がどういうふうに進めていくのかということに関しては、理解というか、了解ではないですね、わかっただけだと思います。ただ、それに対して全面的に賛成だよということまでにはいたっておりませんが、もう少し何回も何回も説明会をしていきますということは伝えてまいりました。いずれにしろ、抱える問題が結構大きいものですから、要するに、少子化の中で学校をどうするかという大きな問題がありますので、我々が基本的にこうだということではなくて、色々な人の意見を聞きながら、そのためにある程度期間も、1年半くらいになろうかと思うのですが、この委託期間も設けて詰めていきたいと思っております。

また、教育長がトップでやっている小中連携推進委員会のいわゆる実務者会議でも、こういう形ならできるだろうというものを今、模索しております。そういったものもお互いに持ち寄りながら、整備基本計画策定委員会と協議しながらいいスタイルのものを、いわゆるかすみがうら市スタイルのものをつくっていききたいと考えております。

○田谷文子委員長

宮嶋委員。

○宮嶋 謙委員

部長のおっしゃるのもわかるけれども、現状の条件を並べていくとそういうことになると思うのですが、地域の方々、会合でも地域視点の問題まで話が及んで、この地域をどうするのかと、そういう発想でもって学校づくりをしてくれという声があったかと思うんです。そういう意味で言うと、今の数字だけ並べれば、確かに千代田中学校区に連携の学校をつくったとしても小規模になるかもしれませんが、ただ、それではだめだからより先進的な人を呼び込めるような学校をつくってほしいと、そういう声が強かったと思います。

そういう意味で言うと、部長一人のお考えという枠は超えるかもしれませんが、そういう全庁的なあるいは市長がこのまちづくりをどうするかというような観点からこういう学校をつくりたいと、そういうような発想といいますかね、そういったもの、指令とかイメージとか、そういったものは特にないでしょうかね。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

私も、こういった状況の、人口減少の状況の中で何かしら地域を活性化しなくてはいけないだろうとは、さんざんお話はお伺いしました。当然、地区の懇談会でも一番そこが真っ先に出るわけです。いわゆる区域指定の話だと思うのですが、あるいは調整区域の廃止というような観点のお話だと思いますが、そういったことも十分踏まえながら、当然それは考えていきます。ただ、遠い将来というんでしょうかね、近い将来のこともやっぱり考えないといけないと思うのですよ。今の小学生とか中学生のことも考えてあげないといけないと思うのですよ。

そのため、特に目標という話にもなってくるかと思いますが、霞ヶ浦地区の子どもたちがこういう状況で学習できるわけですから、それと比べるとちょっとバランスが悪いのではという思いもあるものですから、当面できるものの形を模索していくということも一つの方向だとは思っております。ただ、おっしゃるように地域が衰退するのを黙って見過ごすということは、我々行政にはあってはならないことだというふうには、これはまた思っております。

○田谷文子委員長

宮嶋委員。

○宮嶋 謙委員

私が伺いたいのは、市長なり教育長がそういうビジョン的なお話というのはあったのかどうか、それに基づいて話が進んでいるのかどうかということです。

○田谷文子委員長

教育長 大山隆雄君。

○教育長（大山隆雄）

今のところは千代田中学校区に小中一貫教育のできる施設をつくるということで、具体的に不足教室とかあるいは特別教室、そういったハード面でのことについてはこういったものが必要になってくるとか、そういう話は申し上げています。ただ、基本的にどのような学校をつくっていくかという、その流れとかそういうことまではまだ至っておりません。基本的には、よりよい小中一貫教育ができる施設をつくることはお願いしておりますし、市長も考えていると思います。

以上です。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

時間もなく、差し迫っているけれども、先ほどの私が質問した霞ヶ浦地区の反省点というので、改めてよく見たけれども、誰もがかわるスクールバスの内容がこのスケジュールだと大分後半に入っているのもっと前段から協議していったほうが、私も霞ヶ浦地区の統合のとき、2年間はちょっと外していましたが。もっと早目に取り組むことが今の霞ヶ浦地区のバスの運用、評判も含めて、あとは、かすみがうら市全体のスクールバスのあり方ということですり合わせも必要になってくると思いますし……

[「学区が決まらない」と呼ぶ者あり]

○田谷文子委員長

宮嶋委員。

○宮嶋 謙委員

決まらないけれども、もっとこの後半よりも早い段階から、市長公室の管轄になるかもしれませんが、インフラが、絶対量が足りないわけですから、そういう意味で早くからやらないと、いざ懇談会とかいった場合に、バスは無料なのか有料なのかどうなんだとか、そういう誰もがかわることだけに率直に聞かれてくると思うんです。

だから、そのあたりを、いや、それはまたその先の学区が決まってからですとかあつさり言う感触も悪くなりますから、そこはもうちょっと前向きに言えるように、この時期から取り組んでいきま、霞ヶ浦地区の今の無料の形も踏まえて、かすみがうら市全体としてバスをやっていくということで、それが霞ヶ浦地区は先にやったことの反省点かなと私は思うけれども、いかがですかね。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

スクールバスに関しましては、区割りが決まらなると細かいことは当然できないわけで、それは当然、この統合委員会のほうでということだと思います。その前段の整備基本計画策定委員会の中でも

当然、議論になるべきテーマかなというふうには思っています。議論は何かとすると、まずは無料かどうかという話だと思います。我々は、無料という前提でこれまでも説明してきましたので、ただ、霞ヶ浦地区でも一部有料化という検討もしなくてはいけないという説明はしております。発足当初に関しては無料という説明もしてまいりましたので、ただ、実は土田地域が有料でバス通学している実態もありますので、恐らくその辺の話かと思えます。ですから、そういったものも含めて整備基本計画策定委員会の中では、当然、議論をしていただくような話になるのかなと考えております。

○田谷文子委員長

岡崎委員。

○岡崎 勉委員

私も地元が志筑地区です。今いろいろな話があっちょっと思っていたんですけども、志筑の方々は全く反対ではなくて、おおむねというかほとんど賛成だと思います。というのは、志筑という話があっちょ、その後、今度、千代田中というそういう説明を理解していなかったことがあっちょ、一方的に言われたので少し反発があっちょと思うんですけども、PTAの方々に聞くと、やっぱり適正規模化というのは、これは大事なものだということで理解しています。多分、真っ向から反対なんていうのはないと思います。

それについては、ほかには議会に挙げる前にもう一度でも二度でもやっぱり今、設楽議員が言ったように慎重に丁寧に説明していただければ理解できると思います。その中で、今度、基本計画あるいはその中で実施計画をつくっていることを今、皆さんが相対的に話したことを十分検討していただいたほうがいいのかというふうに思います。それは、ぜひとも議会をやる前に説明というか、具体的になくてもいいですから、話をさせる、PTAの話を聞くということもつくっていただければなと思いますので、その辺は私どもの要望でいいですから、よろしくお願いします。

○田谷文子委員長

ほかにありますか。

設楽委員。

○設楽健夫委員

これ、混乱なく進めていくためにも、このロードマップを見ますと、基本設計及び基本計画と書いてありますよね。その下に点線括弧で、整備基本計画策定委員会があると。この基本設計をどのような形でどういう仕様書をつくっていくのか、そのことがその後の基本計画を拘束する可能性がありますよね。だから、この辺が、基本設計がどのような仕様書で、印刷を含めてね、1年間かけてつくり上げていくという、そういうもので基本設計の概要を例えば数パターンがつくられて、検討課題というふうに出されてくるのかちょっとわかりませんが、この辺、ちょっと基本設計と基本計画というところのつなぎのところを相当慎重にしていかないと、基本設計で基本計画が縛られたりとか、そういう話はないですか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

お互いを補完し合うと言うとちょっと違うかもしれませんが、まず基本の考え方があっちょ、その基本の考え方の上で設計するという意味合いだというふうに理解していただければいいのではないのでしょうか。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

そうしますと、先ほどからありますけれども、これ、慎重にいく必要があるんですけども、千代田地区の小中一貫校のスタイル、そのことが前提になりますよね。そういう意味では、整備基本計画策定委員会というふうにここにあるんですけども、これ、どこに入るのかということはあるんですけども、学区審議会の中に最善の策の場所の問題と、あと、9ページにある第2期計画期間において学区の再編成に入るという項目を合わせて議論をやっぴり進めていきながら、幅を持たせて基本設計なら基本設計に入っていきますと、その後がちょっとぎくしゃくするような気がするんです、これ。いかがでしょうか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

まず、これは千代田4校地区の統合校をつくるための基本の計画、基本の設計であります。そのほかのことは基本的には考えないということはないですけども、学区の見直しは当然、議論しなくては行けないですから、全く関係ないということではないのですが、まずは4校地区の統合校をつくるための計画をつくるのだと、設計をつくるのだというふうにご理解いただければいいのではないのでしょうか。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

今、千代田中学校であいている教室というのは何教室あるんですか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

今、全部で6クラスです。幾つかはあいているようですけども、基本的には特別教室とか生徒会室等を使って、それなりの利用はしているという状況でございます。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

霞ヶ浦地区の統合小学校、旧北中地区を統合小学校用に改造、改築しましたよね。そういうふうなことが頭の中にやっぱり浮かんでくるけれども、そうなってくると千代田地区の統合小学校をどうつくっていくのか、中学校の施設をどういうふうに使っていくのか、当然、やはりそういう内容もこの基本設計の中には入ってこざるを得ないというふうに思う。それは、全体の千代田小中地区を含めて、学区の再編成を含めて全体の基本的な計画といいますか、そういうものが前提になって、そこが一番大変なところというのはわかるのですけれども、それは必ずそこに触れざるを得ないというふうになってくると思うけれども、その辺はどういうふうに対処していきますか。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

整備基本計画の中でもんでいく話だと思います。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

そうしますと、この基本設計及び基本計画とありますけれども、それと整備基本計画策定委員会というのが平成30年に入ってからですね。悩ましいところです。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

このスケジュールで平成30年にもう整備基本計画策定委員会をつくと図示しているのは、基本設計、基本計画はある程度、形にならないと何もなしの中での議論というのは非常に難しいものですから、ある程度の議論、たたき台みたいになるものをつくる期間をいただいて、このころになると一つの写真、青写真的なものが見えてくるでしょうから、そういったところからの協議でいいのではないかと、いう前提でつくったものです。

例えば、6月に補正を組んで議決していただいた後、発注するわけです。発注と同時に整備基本計画策定委員会をつくっても問題はないとは思いますが、そういったもなかなか議論する中身というものがなくて開催も非常に難しいでしょうから、だからこれは早目に開催することは十分可能です。この辺は今後の委託内容、委託事業の進捗状況に応じて多少のずれ、前倒しでしょうか、そういったものはあってもおかしくないというふうには思っております。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

ここの基本設計、基本計画、この適正規模化計画の9ページの第2期間の学区の再編成の問題がありますけれども、その辺はどう整備、含めて、もう少しここの基本設計及び基本計画というところを少しもんでいただけませんか。これちょっと……うん、だから……

〔「実際、これできない」と呼ぶ者あり〕

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

適正化計画、平成25年3月でうたっている学区の見直しに関しては、千代田地区だけではないです。霞ヶ浦地区の学区の見直しあるいは千代田地区との境の見直しというものもあるわけです。ですから、全体の見直しということもありますので、それは切り分けて議論をしていきたいというふうに申し上げます。

○田谷文子委員長

設楽議員。

○設楽健夫委員

これ、大事なところです。全体の霞ヶ浦地区の小中一貫教育、基本方針でそういう宣言されて準備に入っていくということについては、そのままやっぱり教育長のもとに、学校教育課あるいは何らかの機関がつくられて進んでいくと思うんですよ。ただ、今回のこの千代田地区の統合問題というのは、

どうしてもやっぱり小中一貫校と切り離して考えることができない内容が含まれていますから、そこは全体の一般的なものがあるからという説明の上とは別に、別にといいますか、それよりも先にこの基本設計、基本計画にかかわるものとして準備を進めていく必要があると思う、あるいは何らかの策を講じる必要があると思います。

○田谷文子委員長

教育部長 飯田泰寛君。

○教育部長（飯田泰寛）

今般の市長の施政方針演説の中にあつた文言は、小中一貫を軸としてということだったかと思えます。そういった考えは、当然、この基本計画、基本設計の中には織り込まれていくべき話なのかなというふうには考えております。

○田谷文子委員長

今、基本設計、基本計画のところで、もうちょっとこの辺を詳しくご説明していただきたいということと、市長も含めてご意見を伺って、5月にもう一度本委員会を開きたいと思えます。

ほかに、ご質問等はございませんか。

それでは、千代田中地区統合小学校整備に係る当面のスケジュールについては終了させていただきます。

ここで説明員の交代をお願いします。

暫時休憩します。

休 憩 午後 0時13分

再 開 午後 0時14分

○田谷文子委員長

会議を再開します。

それでは、次に、さくら保育所閉所に伴う民間事業者協議進捗状況について議題といたします。

保健福祉部長 寺田茂孝君。

○保健福祉部長（寺田茂孝）

お疲れのところ、ありがとうございます。4月の人事異動によりまして、保健福祉部長となりました寺田です。どうぞよろしく願いいたします。

○保健福祉部長（寺田茂孝）

それでは、さくら保育所閉所に伴う民間事業者協議進捗状況について、担当の子ども家庭課長の大久保からご説明申し上げますのでよろしく願いいたします。

○田谷文子委員長

子ども家庭課長 大久保昌明君。

○子ども家庭課長（大久保昌明）

子ども家庭課の大久保です。よろしく願いいたします。

さくら保育所の閉所に伴う民間事業者との協議の進捗状況について報告をさせていただきます。

民間事業者との協議の状況につきましては、これまでも文教厚生委員会等で報告をさせていただいておりますが、改めまして本年4月当初時点の状況を報告させていただきます。

お手元の資料としまして、一覧表を用意いたしましたので、それに従って説明をさせていただきます。

表中2列目、アルファベット表示でAという表示がありますが、こちらは平成28年度の利用定員になります。それから、3列目、アルファベットB表示、こちらが市から事業者のほうへ定員の拡大をお願いした要請の数字になります。さらに、5列目、アルファベットC表示が事業者からの回答となります計画実数になります。

最初に、プルミッコ保育園につきましては、110名の定員のところを78名の増員をお願いいたしました。事業者からは、67名の拡大をする計画が出されたと、そういうような内容で見ていただければと思います。

次の千代田保育園につきましては、44名の要請に対しまして44名を増員する計画書が出されております。

次の神立幼稚園につきましては34名の要請をしておりますが、現施設の許容範囲の対応で、許容範囲の中で対応という回答となっております。

くりのみ自然幼稚園につきましても、12名の要請に対して12名の回答につきまして、現施設の許容範囲の中で対応できるというような回答となっております。

のぞみ保育園につきましては計画数はゼロでございますが、引き続きまして検討をお願いしているところでございます。

これらを合計いたしますと、平成28年度の定員550名のところを188名の枠拡大の要請をいたしました。結果的には、157名分の確保が見込めることとなりまして、受け入れ総数は707名の規模になるところでございます。この確保見込み数に対しまして、下段、参考という部分の表になりますけれども、市街地近郊の入所児童の見込み数は、平成28年度実績で614名、29年度及び30年度で626名程度と見込んでおりまして、先ほどの707名に対しまして、数的には入所に余裕があるというふうを考えております。

次に、5つの事業所の中で施設の増設を計画しておりますプルミッコ保育園と千代田保育園の事業の進捗状況につきまして報告をさせていただきます。

プルミッコ保育園につきましては、3月の議案審査特別委員会におきまして説明をさせていただきますが、こちらにつきましては、保育園と児童クラブが併設された施設であります。現施設の隣接地を用地として取得いたしまして、子ども・子育て支援整備交付金事業を活用しまして児童クラブを建設し、そちらに保育園のほうの児童クラブが移動することであいた部屋を保育室へ改修しまして、定員枠を拡大するというような内容になってございます。かかる予算につきましては、今年度の当初予算にて計上しているところでございます。

続きまして、千代田保育園でございますが、こちらは保育所等整備交付金事業を活用いたしまして、現有敷地の中で施設を増設し、児童の受け入れを拡大するものでございます。かかる予算につきましては、昨年度の途中で制度改正が行われた関係で新たに事業者が補助対象となったことから、当初予算の段階では計上されておられません。今後、年度途中での補正予算で対応をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

いずれも国の補助事業を活用することから、補助事業の内示後において事業に着手し、年度内の完了を目指すこととなりますが、千代田保育園が活用する保育所等整備交付金につきましては、内示通知が届いております。プルミッコ保育園が活用いたします子ども・子育て支援整備交付金につきましては、今月中には内示があると伺ってございます。今後は事業の着実な、年度内に完了を目指しまして、事業者と連携を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○田谷文子委員長

以上で説明が終わりました。

ただいまの件につきまして、ご質問等ございましたら挙手の上、ご発言をお願いします。

古橋委員。

○古橋智樹委員

さくら保育所の保護者会の皆さんは、今、どういう状況と、感触といいますか、気持ちをどういうふうに、前と比べてどういってお考えなのかお察しされていますか。

○田谷文子委員長

子ども家庭課長 大久保昌明君。

○子ども家庭課長（大久保昌明）

昨年度の今の当時署名活動されておりました。その後、定例会において、趣旨選択されたことというような内容、それから、議員の皆さんからの出席を踏まえて説明会を開催いただきました経過があります。ある程度の理解をいただいているのかなとは思っておりますけれども、その後の父母の会のほうで行いましたアンケート等では、まだまだ理解はいただけていないのかなというような数字も見受けてございます。

うちのほうとしましては、その後、進捗状況をお知らせというような形で4回ほど出させていただいております、その中で29年度当初に転所を希望された方は、全員、希望先に入れたということ、父母の会の方からの一定の評価をいただいているというふうに感じております。

今年度になりまして、委員の中の方も、役員の方ですか、改選とかされている方がおりますので、連絡をとりまして、近々、説明会をやるというようなことで日程の調整等をしている段階でございますが、来年度に新たに転所する方が27名ほどいらっしゃいます。5歳児の方はそのまま小学校へ行くというような形になりますけれども、転所をされるのは27名いらっしゃいますので、その方々に対しましては、今の進捗状況とかを丁寧に説明をしたいというふうには考えてございます。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

これ、請願書が出ていたというふうに思いますけれども、今度、近々、説明会を開催されるということですね。今、ここに表が、民間事業者協議進行状況についてというものが出されていますけれども、これと同じように請願項目について、どういうふうなことが実施されて、どういう理解が得られているのかということについても表として提出をしていただけますか。

○田谷文子委員長

子ども家庭課長 大久保昌明君。

○子ども家庭課長（大久保昌明）

それは、説明会での際に提出したほうが良いという内容でよろしいでしょうか。それとも、議会のほうに提出したほうが良いという内容でよろしいでしょうか。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

文教厚生委員会。ここの場に。

○田谷文子委員長

子ども家庭課長 大久保昌明君。

○子ども家庭課長（大久保昌明）

はい、わかりました。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

それと、説明会を開催するとき、保護者の方の目線といいますか、立場に立って、これは大変なことというふうには思いますけれども、その点について十分留意してお願いしたいなというふうに思うんです。前回、ちょっと唐突にぼんと会議が終了された、そういう感覚を私、受けましたので、その辺はやはり丁寧に対応していくことをお願いします。

○田谷文子委員長

子ども家庭課長 大久保昌明君。

○子ども家庭課長（大久保昌明）

ご指摘のように、前回、一旦、終結した後にもう一度という話で再開したような経過がありましたので、保護者の方からのご意見も十分に聞いて対応したいと思います。

○田谷文子委員長

ほかにございますか。

それでは、ご質問等もないようですので、本件を終結いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部の皆さんは退席をしていただいて結構でございます。

暫時休憩します。

休 憩 午後 0時24分

再 開 午後 0時25分

○田谷文子委員長

会議を再開いたします。

その他、何か意見がございましたらお願いいたします。

設楽委員。

○設楽健夫委員

特に千代田中学校区の小中一貫校だとかそういう動きとあわせて、市民、公民館のほうでも小中一貫校の研究会とか学習会等々も開催されていますけれども、私もつくば市とか、あと土浦市が新治地区に義務教育学校を開校というふうに聞いています。特に学校関係の実情等視察、勉強もさせていただきたいなと思います。

○田谷文子委員長

視察の件は、以前、議会事務局と学校教育課にも諮ってあったかと思いますが、その辺の進捗状況と取り運び、どの辺までいっているのか、わかり次第で結構ですけれども、お願いします。

議会無局長 前島嘉美君。

○議会事務局長（前島嘉美）

3月の定例会のときに、皆さまのほうからこういう視察場所を視察したいというご意見等があった

かと思えます。

まとめたのが手元にありますので、お配りします。配布もれはございませんか。

ただいま設楽委員がおっしゃった内容も含まれているかと思えます。委員の皆さまのほうで決めていただければ、私どもでお手伝いをさせていただきたいと思えます。

○田谷文子委員長

視察をするということに関しては、賛成していただけるのでしょうか。賛成の方、ちょっと挙手していただけますか。

[賛成者挙手]

○田谷文子委員長

皆さん、賛成ということで。

それでは、場所ですけれども、この間、3月のときお話ししたのは、つくば市の春日学園と、それから今度、土浦市の新治中学校を開校予定なので、その辺、2校を視察したいという旨のことはお話しいただいたかと思えますけれども、その2校でよろしいですか。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

春日学園は新設だからね。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

だから、既存の学校を改造して変えたところの……

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

土浦市は、そういう準備はしてきているね。土浦市はいいんじゃないですか。

○田谷文子委員長

土浦市と、あとはどこがよろしいでしょうか。

設楽委員。

○設楽健夫委員

あと、水戸市の義務教育学校。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

小規模。

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

類似ケースだね。中学校を変えたとかね。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

今の話は、古橋委員の話だと、中学校をベースにしてというところをどこかということですから。

○田谷文子委員長

調べてもらいますか。

議会事務局長 前島嘉美君。

○議会事務局長（前島嘉美）

教育委員会のほうが状況などわかっているかと思しますので、その内容で教育委員会に打診はさせていただいて、委員長に報告をさせていただきます。

○田谷文子委員長

日程はいつごろがよろしいでしょうか。

岡崎委員。

○岡崎 勉委員

だから、6月、議会が終わった後のほうがいいではないですか。それで、7月、8月、夏休み前。1学期やるとわかるのではないか。

○田谷文子委員長

開校は、平成30年だからね。準備状況を知りたいわけだから。

設楽委員。

○設楽健夫委員

この全体の動きを見ると、相当急ピッチだから、今回のところね。だから、新治地区だけでも早目に準備状況の説明を……

○田谷文子委員長

古橋委員。

○古橋智樹委員

このくらいの金かけてこの人数を対応しますという説明までいただければと思います。

○田谷文子委員長

設楽委員。

○設楽健夫委員

そうだね。だから、5月中にそれは早いほうがいいよな。じゃないとこちらの知識が。

○田谷文子委員長

議会事務局長 前島嘉美君。

○議会事務局長（前島嘉美）

今の話ですと、土浦市ということであれば、相手もございますし、学校の開校期間でどうなのかという、その点、調整して委員長のほうに報告するような形で教育委員会に打診したいと思います。

○田谷文子委員長

それでは、視察は5月ということで、今、検討していただいているところです。

そのほか、ありますか。

ないようでしたら、これで本日の文教厚生委員会を散会いたしたいと思います。

長時間にわたり、ご苦労さまでした。

散 会 午後 0時33分

かすみがうら市議会委員会条例第30条の規定により署名する。

文教厚生委員会委員長 田 谷 文 子